

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省出雲河川事務所から委託を受けて、大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。令和5年度は5月から白潟地区の和多見町地内で松江城下町遺跡白潟4A区の発掘調査をしています。

これまでに江戸時代後期に整備された町屋跡を発見し、白潟地区におけるまちづくりの一端が明らかになりました。また、江戸時代の貨幣「豆板銀」も発見されました。銀は重さで取引されるため重量調整で豆板銀を使いました。県内では数点しか出土していません。

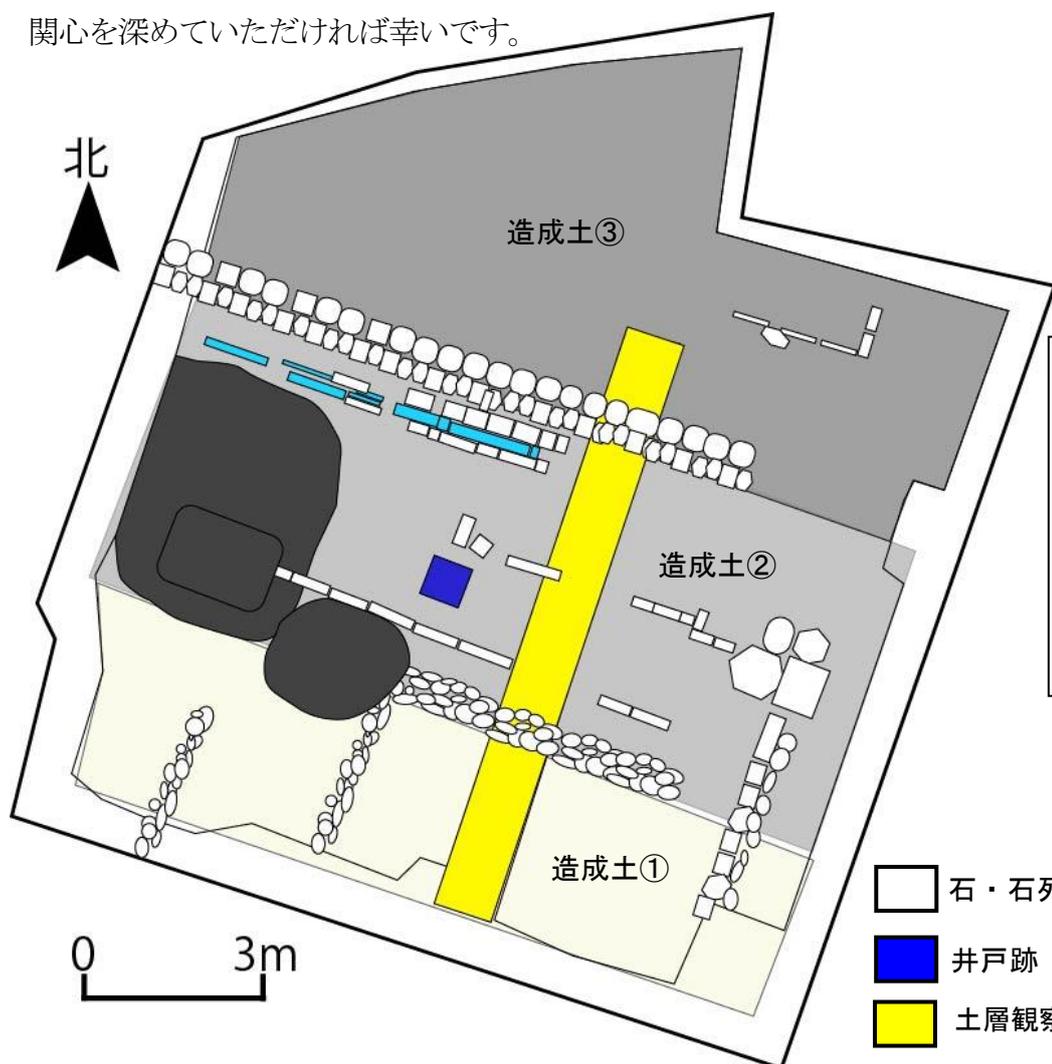
このたびの調査を機会に、地域の歴史や文化財に関心を深めていただければ幸いです。



松江城下町遺跡白潟4A区位置図



出土した豆板銀



町屋は①→②→③の順番で北へ土地を拡張し建設されました。造成土から出土した遺物によると、土地の拡張は非常に短期間で行われたと考えられます。

造成土①

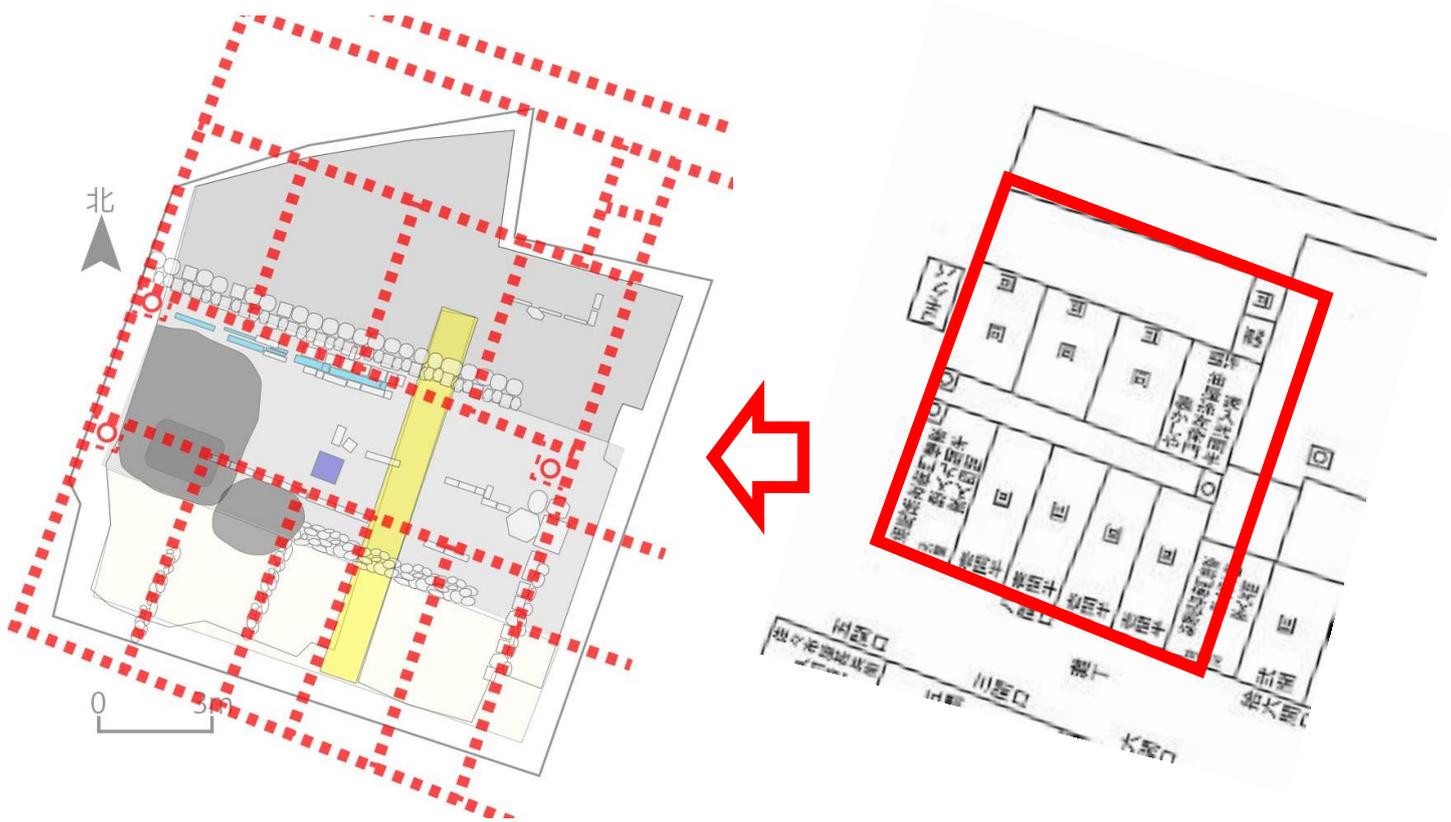
造成土②

造成土③

石・石列

井戸跡

土層観察用溝



和多見町（原図）白潟本町・八軒屋町（原図）【1780年代】を加筆修正

※船杉力修ほか編 2009『城下町の景観の動態的変容に関する歴史地理学的研究報告書』〈絵画集〉より抜粋

出土した豆板銀の価値は？

- ◎重さは 10.5 g でした
 - ・銀 60 匁 = 金 1 両で取引される
 - ・1 匁 = 約 3.75 g、60 匁は 225 g
- ◎幕末のそば代金で換算すると
1 両は現代の 200,000 円程度
- ◎ $200,000 \text{ 円} \div 225 \text{ g} \times 10.5 \text{ g} = 9,333 \text{ 円}$

出土した豆板銀は 9,333円程度の価値

銀品位

慶長 (1596~1615)	80%
元禄 (1688~1704)	64%
享保 (1716~1736)	80%
元文 (1736~1741)	46%
天保 (1831~1845)	26%
安政 (1855~1860)	13%

江戸時代のお金の仕組み

